

### 3 議会基本条例の検証について

#### (1) 議会基本条例の検証結果報告について

【町田委員長】 事務局に説明を求める。

【議事係長】 前回9月15日の本委員会において、「議会基本条例の検証結果報告」が全会一致で承認されたことを受け、委員長から議長に対して報告が行われた。議会基本条例の検証結果報告は、4年前の検証時に市議会ホームページに掲載していることから、今回の検証結果報告についても本日の本委員会終了後、準備が整い次第、市議会ホームページへの掲載を予定している。

【町田委員長】 前回、皆さんの承認をいただき議長に正式に報告した。前回の本委員会では、神奈川ネットワーク運動からは、タブレット端末の導入について小型パソコンのほうが使い勝手がよい、日本共産党からは、子供連れで傍聴できる環境整備を考えたい、虹の会からは、改選後の次期の検討時には改めて話し合う内容を追加することもできるように申し送ってほしいとの意見が併せてあった。この3点については、議長に必ず次期に申し送りしてほしいと伝えてある。説明について何かあるか。

#### 全 員 了 承

【町田委員長】 それでは、そのようにお願いします。

#### (2) 通年議会について

【町田委員長】 事務局に説明を求める。

【議事係長】 通年議会の実施について、前回の本委員会において、委員からの依頼により委員長が実施に当たったのメリット、デメリットなどをまとめた資料を提示され、委員から出た意見などと併せて、各会派に持ち帰っていただき、本日の本委員会で再度協議することとなった。

【町田委員長】 事務局から説明させたとおり、通年議会の実施については、各会派に持ち帰っていただいている。会派としての考えをまとめていただいていると思うので、順番に聞いていく。

【石田委員】 虹の会は賛成である。委員長が前回の本委員会で配付した資料には、進めていくことのメリット、デメリットが記載されている。デメリットとして、議員の日頃の活動も非常に重要なため、この部分を懸念する見方もある。しかし、議員の本分は議会での活動であり、その点をしっかり担保することが必要である。

また委員長からは、過去に問題が発生して委員会としてすぐに対応したかったが、正式に行えず、有志で対応したことがあったとのことであった。それでは、よくないと思う。議会として機能できる状態を担保する意味で、一刻も早く前に進めたい。

さらに議長からは、本来、今期が始まってすぐに着手しなければいけなかったが、コロナ等の緊急事態が立て続いたため、このタイミングになってしまったとのことであった。このタイミングになったことは、非常に残念だが、今期のうちに話をつけていくことが重要ではないかと考える。

【堀口委員】 日本共産党は、前回の発言のとおり、導入を進めていくことに賛成している。ただ、委員長がまとめたメリット、デメリットの中に書かれている必要経費等の細かな部分について、詰めなければならないと思っている。前回の本委員会における河端委員の発言にあるように、導入時期については、もう少し議論の余地があるのではないかと。市民の皆さんにも理解いただく期間が必要である。そのような点から、今期中の決定は少し難しいのではないかとと思うが、おおむね賛成している。

【布瀬委員】 神奈川ネットワーク運動は賛成である。コロナ禍において、通年議会であったほうが

よかったと感じる場面が多々あった。早く導入したいと思うが、堀口委員の発言にあったようにいつからとの意味では、どのように導入していくか等課題がある。いずれにせよ早急に取り組んでいくべきである。

【赤嶺委員】 大和正風会は、改革案として通年議会の導入を提案していることから、導入に関しては賛成の立場である。しかし、前日も発言したとおり、どのような通年議会を採用するかは、残された期間をもって、しっかり議論することが重要である。通年議会の方法は様々あるので、通年議会にして、議会は主体的に何を行うのか、通年議会のメリット、デメリットをより精査し、本市にあった議会運営の在り方や形等について見定める必要がある。通年議会は、10年以上前から導入が叫ばれている議会改革の一つであるが、他市の議会では採用したが元に戻す例が多々ある。このような情報についてもよく考える必要がある。繰り返しになるが、導入を進めるべきだとは思いますが、そのための議論もしていく必要がある。

【河端委員】 さきの本委員会で発言したが、今の賛成か反対かとの議論は、来期から通年議会を実施することについてであり、今期にそれを決定することは少し賛成しづらいところがある。

通年議会については、先ほど赤嶺委員も多くの自治体で採用されていると発言されていたが、委員長が示された資料や事務局が調べた資料の中で、通年議会を採用しているパーセンテージを見るともう少し慎重に検討を進めていく必要があるのではないかと。先進的に取り組んでいる市議会や、実施したが途中で元に戻した市議会の調査、研究をしながら決定するべきではないかと。今期中に決定することは、少し厳しいとの意見が会派の中で出ている。来期早々に検証委員会を立ち上げ、結論を出す方向性を取っていくべきではないかと意見もある。

【木村委員】 自由民主党は、委員長からの資料を基に会派で検討しているところであるが、会派としての意見統一までには至っていない。この件は、引き続き検討していきたいということが会派としての現状である。

【町田委員】 明るいまらい大和は、賛成ではあるが、見切り発車はよくないと思っている。大事なことなので、本委員会や各派代表者会を通して、各議員が納得した状態で進むことが一番大事であろうとの結論である。

【町田委員長】 各会派の意見を聞いた。当初提案した内容では、本日決定するということがあったが、状況的に難しそうである。整理しなければいけない課題もまだまだたくさんあると思っている。議長と相談し、今後の対応を検討したい。今後の取扱いについては、少し空いてしまうが、次回11月18日の本委員会まで引き取らせていただきたいがどうか。

【石田委員】 意見の合致が見られないようで、非常に残念に思う。危機的な状況が続いている中で、議会は柔軟に動かないといけない。

藤沢市議会では、タブレット等の導入が進んでいたこともあるが、Zoomで委員会等ができるようになってきている。本市議会の場合、コロナに感染すると欠席の扱いだが、症状がよければ、Zoom等で自宅から出席できる市議会が周辺にある。そのような状況で、遅々として進まないのは非常に問題が大きい。確かに詰めないといけない部分があることは分かるが、そのようなことは既に実施している自治体を参考にすればスピーディーに進むのではないかと。危機的な状況というのも加味して、委員長と議長の検討をお願いしたい。

【赤嶺委員】 引き取って、どのような検討がされるのか伺いたい。

【町田委員長】 これまで、「細かな部分について、詰めなければならないと思っている。」「今期にそれを決定することは少し賛成しづらいところがある。」との意見が出された。また、通年議会を実施

した議会が戻そうとしている例も多々あるとのことであった。それが具体的にどの議会でそうなっているのか確認する必要がある。そのほか、通年議会を実施している議会で、どれぐらいの期間をかけてどのような議論が行われたのかをさらに精査していく必要もある。さらに、前回の本委員会で、公明党から、周辺自治体で実施しているところがあるのであれば視察に行き、現状を確認する必要もあるのではないかと意見が出された。可能であれば、そのようなこともしたい。

【赤嶺委員】 承知した。次の本委員会の予定が11月18日である。各会派の意見を伺ったところ、多くの会派が賛成している。各会派においても、通年議会を採用後、本市議会がどのような議会活動をするべきか、通年議会のメリットを生かして何か議会でできないか、検討しておくほうがよいのではないか。

【堀口委員】 あくまでも通年議会はツールの一つであり、どのように運用するかが重要になる。赤嶺委員が発言されたように、通年議会になった場合、何ができるようになるかを認識する必要があるのではないか。私たちも会派に持ち帰り、県内で通年議会を採用している市議会議員に話を聞く等の調査をしたい。

【町田委員長】 自由民主党は、そもそも会派の中で賛成の方と反対の方とそうでない方がいて、会派の中でまとまってないとのことである。何ができるかまで進められるか分からないが、各会派、調査研究していただきたい。

【井上委員】 自由民主党は委員長の発言のとおり状況である。先ほど、皆さんの意見の中にもあったが、一度通年議会を実施したが、元に戻している議会もあるとのことである。それがどのような理由だったのか等、様々な情報を集めたい。その上で、実施してもよいという判断になるかもしれない。今は情報が少ないので、これから情報を得て議論していきたい。

【町田委員長】 赤嶺委員の提案のとおり、一旦各会派に持ち帰っていただき、引き続き調査研究してもらいたい。繰り返しになるが、次回11月18日までこちらで引き取らせてもらいたい。

【石田委員】 赤嶺委員発言の通年議会を実施することによるメリットを生かして具体的にどのようなことをするかについて会派でまとめてくる認識でよいか。

【町田委員長】 研究してきてもらえればよいと考えるがどうか。

【赤嶺委員】 委員長と正副議長との調整や検討があるとは思いますが、11月18日まで時間があるので、この時間を各委員も生かしてもらいたい。特に導入に賛成の会派は、メリット、デメリットをより精査すべきである。先ほど堀口委員が発言されたような確認をする時間もある。それらを進めた上で、11月18日に委員長、議長の考えが示された後、各会派の意見を踏まえて議論を進めていければ、時間の無駄を省ける。その日から協議を改めて始めるのでは、この間がもったいない。次回、皆さんの意見を伺いながら協議を進めることができれば、限られた時間を有効に使えるのではないか。

【木村委員】 もし各会派で参考になる資料があれば、全会派にその資料が渡るような方法を取っていただきたい。それを基に、各会派じっくり検討していくことがよい。

【河端委員】 公明党は、通年議会を検討することをバツとしているわけではなく、今期のうちに来期から通年議会を始めると決定することについて、もう少し慎重であるべきという意見である。研究することは、会派として行うべきだと思っている。大事なことなので、来期からの通年議会導入について本委員会で今決める協議に少し戸惑いがある。

【町田委員長】 今後の方針については、一旦引き取らせてもらい11月18日に再提案ということでよいか。

【河端委員】 繰り返しになるが、公明党は通年議会を実施すべきだと思っており、最初に通年議

会を提案したのは我が会派である。今期のうちに決定する点について、もう少し慎重であるべきという意見であることを重ねて補足する。

【吉澤委員】 基本的に公明党としては賛成である。その上で、視察も含めて、もう少し検討する余地がある。実施することに反対ではなく、ぜひ実施するべきだと思っているが、メリット、デメリットがあるので、時間をかけながら、再度研究していきたい。

【中村議長】 今回、私からもお願いした件であるが、本日様々な意見があった。重要なことなので、みんなで合意して進めていきたい。慎重であることももちろん重要だが、スピード感も大事である。仮に次期にとなったとしても、またそもそも論で議論がスタートすることになると、永久に続いてしまう。我々の任期は、4年しかない。今期はコロナやパワハラ問題があった。突発的なことにも対応しながら進めており、連続して何十年も続いているわけではない。来期へ申し送ることにして、検証事項等と併せて来期一から始めるとなると、全然先に進まない。本日、皆さんから貴重な提案をいただいたので、慎重かつスピード感を持って皆が合意できる形で、議論が進めばよいと思うので、よろしく願います。

【石田委員】 次回の本委員会までに、事務局に資料提出を求めたい。前期の議会基本条例検証委員会では、通年議会に関して、相当な時間を取って議論、検討されていた。その経緯も含めて議論しなければいけない。今の議論は、最近検討が始まったので、今決めることは性急だということになっている。通年議会に関する過去の会議録等を次回の資料にしてもらいたい。

【町田委員長】 各委員におかれては、当然そのことを認識した上で、協議されていると思っていた。改めて確認が必要だと皆さんが言うのであれば請求してもよいが、他の委員はどうか。

【河端委員】 会議録であればあえて事務局に求めるまでもなくホームページで確認できるのではないかな。

【石田委員】 承知しているが、今回の議論では、過去の議論との継続性を感じられなかったもので、このような発言をしてしまった。あくまで個人の意見として捉えてほしい。

【町田委員長】 ほかになければ、今後については、一旦引き取らせていただき、赤嶺委員提案の各会派における調査研究は引き続きお願いすることでどうか。

全 員 了 承

【町田委員長】 それでは、そのように願います。